
滝翼 S S

うちゆみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

滝翼SS

【Nコード】

N8656M

【作者名】

うちゆみ

【あらすじ】

タツキー&翼のSSです。

前者タチ・後者ネコです。

…て、ちつともあらすじになくなってなくて申し訳ないです（^| ^ ;
）

滝翼SS(1)です

(前書き)

私の大好きなタッキー&翼のSSです。

実は、2009年の1月からブログで書き始めたものをUPしています。

女性向け・J禁等、ほんの少しでも苦手な方はご遠慮下さいね。

滝翼SS(1)です

- - - - - 枷 (KASE) - - - - -

『傍にいてくれ…』

あの言葉が、こんなに重く感じるなんて…

あの頃は想像もしていなかった。

『うん。いいよ』

軽い気持ちで答えた訳ではない。

でも…俺は間違っていたのかもしれない……

ダンスを踊っている時が一番自分らしく、そして何もかも忘れて没頭できた。

俺は ヒトリデモダイジョウブ

そう思えるから、永遠に踊っていたかった。

滝沢のいないトコロで…

それでも、踊りを終え帰り支度を始めると、ココロは冷えてくる。

重く押し掛かってくる…これは何なんだ？！

訳の分からない重圧…

ダレカ タスケテクレ

ダレカ…

「翼？」

「え！？」

顔を上げた俺を覗き込むようにして、今一番会いたくない人間が心配げに立っていた。

「たきざわ……」

「顔色悪いぞ、翼？体調悪いのか？」

「い、いや……疲れたただだよ。大丈夫」

「…そう。ならいいんだけど……」

「…ん」

軽く笑ってみせたが、滝沢に通用するはずもなく、探る視線は更に強くなる。

「滝沢、ココに用事でもあったのか？」

「あ、まあ……。仕事で」

「…ふん」

有り得ないね、滝沢。

ココは滝沢には用のない場所だ

今度は俺が猜疑まがいの眼差しを少々焦り気味の滝沢へ向ける。

「じゃっ、滝沢。俺は帰るから。頑張れよ」

早くこの場を立ち去りたいから、俺は口早に告げると、彼の前を勢いよく去って行こうとした。

が、

「逃げんなよ」

「！ なっ？！」

腕をガツと掴まれ、俺の耳元で低い声で告げる。

「逃げんな。俺との約束を忘れたわけじゃないだろ」

『傍にいてくれ…』

「につ、逃げてなんか無いッ！！何だよソレ？！痛いだろ、離せよッ！！」

俺は腕の痛みと彼の強い視線から逃れるように、腕を振りほどくと脱兎の如く走り去った。

「お、いっ！つばさ！待ってて、つばさー！ー」

彼が呼び止めようとする声から逃げるように。

ダレカ タスケテー！！

…重い重い枷が俺をガンジガラメにしている

いつかこの枷が外れる時がくるのだろうか

…外れた時、俺は…滝沢はどうなってしまっただろうか…

俺たちは…

「た、きざあ〜ッ」

俺は誰もいない路地裏で独りしやがみ込んだまま、暫く動けずにいた。

FIN

滝翼SS(1)です

(後書き)

ハイ、すみません。

すんげー暗いお話しを書いてみました。

これはまだ続きがあります。滝沢くんがこのままで済むわけないですから(え)

ちなみに、このお話しは今現在のふたりを私的解釈で書いたものです。

だから、絶対こんなことないと思います、ハイ!!

つか、今現在までふたりには何もないってお話しっぱいなぁ〜これって(え?!)

以前のお話を書きづらいや(ええ!?)

ま、ボチボチです。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8656m/>

滝翼SS

2010年10月21日22時13分発行